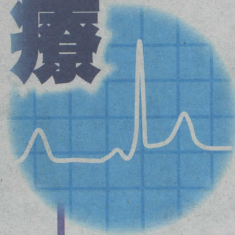


医療

最前線



▶21

女性医師支える「母」

よりよい医療を提供するには、医師の労働環境を整えることも重要な課題である。増加傾向にある女性医師が活躍するには、子育てと仕事を両立できる仕組みづくりが求められる。

富大は附属病院で働く人を支援するため、2007年に院内保育施設「スマイルキッズ」、13年に病児・病後児保育室「たんぽぽルーム」を開設した。「女性が働きやすい環境の整備は全ての人が働きやすい職場づくりにつながります」と強調する。

「M字カーブ」解消

全国で働く女性医師の年齢をグラフにすると30代で急激に落ち込む。「30代は子育て

富大附属病院 病児・病後児保育室長 足立 陽子さん(57)



女性医師の支援体制について話す足立さん
—富大附属病院

世代にあたり、離職を選択する女性が多いようです。子どもが手を離れた40歳前後から復職するため増加し、グラフはM字カーブを描く。

一方、富大附属病院では医師の4人に1人が女性で、その半数が30代であり、M字カーブが解消されている。「M字の解消は支援体制の充実を示します。今後の医師確保の鍵になるでしょう」と力を込

める。

30代は仕事に慣れて中堅としての活躍が期待される世代で、専門医などへのスキルアップを図る時期でもある。重要な時期だけに、一度離職してしまつと、復帰の際に遅れを取り戻すため多大な労力が必要となる。「私生活と仕事のどちらかを充実させるため、一方を犠牲にすることは、少子化や女性の活躍推進が叫

ばれる中で本来あってはならないこと」と語る。

女性医師が活躍しやすい場をつくることは、医師数の確保に直結する。現在、富大医学部に通う学生の4割が女性である。「これからは、もっと女性医師が増えます。医師不足解消や、医療現場全体の負担軽減にもつながり、より良質な医療の提供につながります」

約30年前、富山医薬大に入学したころは「女子は1割くらいがいい方で、隔世の感があります」と振り返る。現在、女性医師の活躍の場は研究や教育にも広がっている。

「公私ともに充実している女性医師の姿は学生の励みになります」と笑顔を見せる。医師の仕事と4人の子育てを両立させた笑顔の背景には、若者の飛躍を見守る母親の優しさと強さがあった。

あたち・よつこ 射水市出身、富山医薬大を卒業後、同大小児科に入局。非常勤医などを経て、2010年から現職。2014年から富大附属病院とやま総合診療イノベーションセンター特命助教。日本小児科学会専門医。